

県議会議員

あらい、絹世の「磯っ子」レポート

県政を
もっと
身近に



<http://www.araiKinuyo.jp>

「施策が国連のSDGsと同方向性」を謳う 県が2022年迄の第3期実施計画を策定

2011年に神奈川県知事に就任した黒岩祐治氏は、新たに県の目指す姿、県が進める政策を謳(うた)い、示した総合計画「かながわグラウンドデザイン」を策定、発表しました。これは「基本構想」と「実施計画」からなり、県議会の議決をへて2012年3月に第1期のもの(実施期間2012~2014年)を策定。2015年7月には社会情勢の変化など考慮して手直した第2期実施計画(同2015~2018年)を策定し、今年7月にはさらに見直しを加えた第3期実施計画(同2019~2022年)を策定し、県議会に報告がありました。第3期実施計画は第1、第2期実施計画の内容と大きく異なる点はありませんが、県が取り組んでいる政策の方向性が国連で2015年9月に議決されたSDGs(持続可能な開発目標)の理念と一致していることが確認できたことから、このことを明確に打ち出している点が特徴となっています。

黒岩県政の総合計画では理念や目標として「行ってみたい、住んでみたい、人をひきつける魅力あふれる神奈川」「いのちが輝き、誰もが元気で長生きできる神奈川」を 県民との総力戦で創り上げていくことを謳っており、「いのち輝くマグネット神奈川の実現」のスローガンが掲げられています。また「神奈川の将来像や県の政策の基本方向」は県の人口が減少に転じると推測される2025年をにらんで決められています。第3期実施計画では重点施策として第2期と同じ5本柱が掲げられています。「未病の改善で健康長寿」「経済のエンジンによる活力あふれる」「安全で安心して暮らせる」「ひとのチカラを最大限にいかす」「地域の個性が輝き魅力あふれる」神奈川を創り上げていく取り組みです。これらは、テーマごとに各部局が連携したプロジェクトチームを設置して進めていく方式で、縦割り行政の弊害を排した特色あるものになっています。

国連のSDGsは、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、社会的平和など人類、地球が持続し、繁栄していくために必要な2015年から2030年まで開発の目標・行動計画を定めたもの。150以上の加盟国首脳が全会一致で議決しました。17の項目、169のターゲットからなっています。

県では第3期実施計画を記載した冊子「主要施策計画推進」とこの「プロジェクト編」の冊子を発行することにしており、その内容は県のホームページに掲載されています。



これが言いたい!

第3期実施計画は、国連で2015年9月に議決されたSDGsの理念と一致していることからSDGsに結び付く県の具体的な取組みが示されたことが特徴となっています。計画のプロジェクトとSDGsを整理する事で県庁内での各局を超えた横断的な取組みが必要であり、今後は各局が連携を取りながら計画を進める必要があります。また、計画を進める上では、SDGsを座標軸とした検証を行うことが重要です。



「ラグビーワールドカップ2019」が9月20日から11月2日まで開催されます。横浜国際総合競技場では9月21日(土)のニュージーランド×南アフリカ戦をはじめ、決勝戦、準決勝戦など7試合が行われます。みなとみらいの臨海パークの「ファンゾーン」では、大型スクリーンでのパブリックビューイングが行われみんなで試合が楽しめ、ラグビーの様々なプログラムも体験できます。

磯子あれ? これ?



大岡川の水域(水源・上流域)

大岡川は横浜市の中心部を流れる二級河川で、全長約12km、流域面積は35.6km²です。上流域の名称は笹下川と呼ばれ、途中(港南区)で日野川と合流して大岡川となり、横浜港(桜木町)に注ぎます。

水源は、氷取沢市民の森にある円海山の麓。この地面から染み出た水や、地下の水脈が水源となります。水源付近では梅雨から7月下旬頃にかけてホタル観賞ができます。

地表に出た水は、笹下川となり氷取沢・上中里地域の畑にまかれたり、収穫した作物を洗うなど農業用水として長年利用されています。

地元の人によると「子供の頃は、水遊びをしたりウナギもいたので獲ったりしたけれど、今はカエルやドジョウ、ザリガニ、ナマズ、ハゼ科の淡水魚ヨシノボリ等がいるくらいだね」と、当時を懐かしんで話してくれました。

参考:「神奈川の河川」、地域の方の話



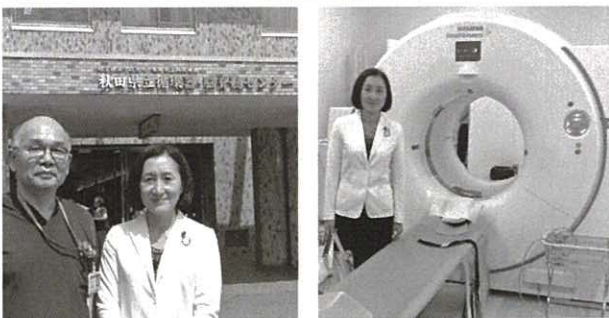
活動報告

藤里町社会福祉協議会引きこもり等自立拠点支援「こみっと」



8月26日(月)から28日(水)まで厚生常任委員会で県外調査を実施しました。

秋田県の藤里町の社会福祉協議会は、2010年よりひきこもり状態や障がいのある方などの社会復帰のための就労支援などの福祉の拠点となる「こみっと」を開設し、5年間でひきこもり状態の方113人中86人が就労するなど自立に結びついています。また、秋田県は少子高齢化が進み人口減少率が全国一で有る事から、「ベビーウェーブアクション」など先進的な子育て支援施策や、健康寿命の延伸のため温泉や豊かな里山を活用した「クアトル(ドイツ語で療養地・健康保養地を意味する)」による健康づくりなどに取り組んでいます。



秋田県立循環器・脳脊髄センター

秋田県立循環器・脳脊髄センターは今年3月に新病棟が完成し、新名称となりました。設立当初は脳血管に関する疾患の専門病院として全国に類を見ない機関で、現在も全国初のPETによる画像診断機器やハイブリッド手術室を複数室備えるなどハイレベルの病院です。

あらい絹世プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株) / (株)メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成31年4月 県議会議員3期目当選
- 厚生常任委員会委員長
- 議会改革検討会議委員
- グランドデザイン調査特別委員会委員
- かながわ自民党女性議員局長